

# 会報

2024.8.1

140

もくじ

2

**特集**

久多の花笠踊

—京都、近江の文化の要衝に花開いた優雅な灯笼踊—

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団 村田 典生

6

2024年、保護財団は設立55周年を迎えます

8

保護財団の活動

てくてく文化財「まち歩き」のススメ（第3回）

鴨川沿いの花街めぐり《前編》先斗町から祇園新橋へ

京都市文化観光資源保護財団 アドバイザー 松田 彰

11

（公財）京都市文化観光資源保護財団 設立55周年記念特別号（前編）





# 久多の花笠踊

— 京都、近江の文化の要衝に花開いた優雅な灯籠踊 —



公益財団法人  
京都市文化観光資源保護財団

村田 典生



## はじめに

久多は京都市左京区の北東部にあり、京都市の最北端にあたる。令和2年の国勢調査ではこの地域の人口は70名である。久多は5つの町（上の町、中の町、下の町、宮の町、川合町）で構成され、里山の風景が広がっている。ただ、過疎化が進み、住民の高齢化率は60%を超えるとされている。かつては久多村という独立した行政村だったが、昭和24（1949）年に京都市に編入された。



久多の志古淵神社

久多の花笠踊はそのような久多で継承されており、平成9（1997）年に国の重要無形民俗文化財に指定され、令和4（2022）年に「風流踊」のひとつとしてユネスコ無形文化遺産として登録された。毎年8月24日に行われる風流の灯籠踊りで、5月5日端午の節句の午祭で志古淵神社にかけた願いの願ばらしとして行われる。

## 筏流しの神、志古淵神社

志古淵神社は京都府、滋賀県、福井県の県境の山々

を源とし琵琶湖に注ぐ安曇川水系にだけ鎮座する神社で、安曇川流域文化遺産活用推進協議会によると思古淵、思古淵、志子淵などと漢字は違うが「しこぶち」と名の付く神社が15社、神社跡が2つ、講が2つある。

林業が盛んな安曇川水系では奈良時代頃から柚人が切り出した建築資材を筏に組んで琵琶湖へ流し、そこから平城京、平安京へと送っていた。近代になっても水運による資材運搬は活発で、昭和23（1948）年に筏流しが廃絶するまで、安曇川や支流の久多川をはじめ各河川で筏の上に乗りでコントロールした筏師が活躍していたのである。

彼ら筏師や材木を激流による岩との激突による事故やこの地域でガワタロウと呼ばれていた河童から守っていたのが「しこぶち」の神であったという。

現在の久多の志古淵神社は久多川とその支流の宮谷川の合流点の開けた場所に鎮座している。かつては下ノ宮と呼ばれていた。これに対し、久多川の上流にある社が現在の上の宮神社である。また、この2社の間には大川神社があり、久多の志古淵神社の祭神の妻の女神が祭られているという。花笠踊はこの3つの神社へ練りこんで行われているのである。

## 久多の花笠踊

久多の花笠踊は京都文化博物館で令和3（2021）年に開催された総合展示「京の盆踊り」のホームページによると、京都で流行した盆灯籠を頭に乗せて踊るといふ盆踊りの形を残しているという。現在でも八瀬の赦免地踊は灯籠を頭に乗せているし、江戸時代の書物の挿絵には岩倉・花園の灯籠踊や松ヶ崎の灯籠踊の様子が残されている。

現在の久多の花笠踊では頭に乗せずに手に持っているが、形式としては明らかに頭上に乗せるものであり、実際にかつては青少年が被って踊っていた。財団と京都市が共同で製作した「京都の歴史と文化映像ライブラリー」の中に昭和48（1973）年に作られた映像「久多の花笠踊」では実際に青少年が頭に花笠を乗せて踊る映像が残されている。財団のホームページからも閲覧できるのでご覧いただきたい。（ただし、この映像撮影時は実際にはすでに踊り手の青少年もおらず、花笠を乗せて踊っているわけでもなく、かつての様子を再現するという形で撮影されている。）

このように近江の信仰である志古淵神と京都の灯笼踊の伝統が残された花笠踊から、かつて久多は双方の文化の交わる要衝であったということがいえよう。

さて、この久多の花笠踊は5つの町を上町、中の町の上組と下の町、宮の町、川合町の下組の2組に分けて、この2組で継承される踊りと歌を掛け合いで行うもので、久多花笠踊保存会によって継承されている。

保存会の河原康博会長によると会員は50代から80代までで50名程とのことだった。踊りの名称ともなっている花笠はこの日のために村の男性が手作りしたものである。

## 花笠づくりは男性の手で

花笠は毎年8月14日頃から久多の5つの町でそれぞれ花宿という集会所、作業所を定め、そこで男性たちが作り始める。花笠は昨年作った



見本となるものを除き、彼らの手で毎年新しいものが作られている。

女性は花宿の男性たちが花笠を作っているところに入ることはできず、出来上がった花笠に触れることも許されていない。

かつては一家にひとつ作られていたようであるが、令和5（2023）年は各町あわせて12の花笠が奉納された。

その形は手仕事によって切り出された繊細な切紙細工の透かしを調えた六角形の台の上に四面の行燈を乗せ、それを精巧な造花で飾り立てる。各町で作る花の種類が決まっているわけではないが、得意な花は概ね決まっている。

材料はほとんどが和紙だが、菊花だけは久多で「ハシマメ」と呼ばれる植物の茎の芯を使って作られてい

る。これらの花は、ほとんどが白色である。これは灯笼の透かし模様から漏れるろうそくの灯りで照らし出された際に暗闇の中では白色が映えるためと言われている。赤などの濃い色合いなどは黒く見えて夜の闇に紛れてしまうからとも言われている。

この花笠はそれぞれの町で細部にわたるまで工夫がなされ、競って作り上げられており、「この模様ができるのはうちのところだけや。」と誇りを持っている。順位をつけることこそないものの、それぞれの町内で毎年の出来栄を競うような節も見受けられ、各町の自慢となるものである。



8月24日夕刻 花宿にて

出来上がった花笠は花宿の座敷の床の間に置かれ出番を待っている。8月24日夕刻、その座敷に御馳走が並び、男たちは酒を酌み交わす。床の間には花笠踊を奉納する3つの神社の神である「志古淵大明神」、「上宮大明神」、「大川大明神」の名が認められた掛け軸が飾られている。

## 宵闇に揺れる花笠は縁を結ぶ

やがて日が暮れて久多の里が宵闇に包まれる頃、最も上手にある上の宮神社に花笠を持った5ヶ町の男性たちが集い、地元の人たちが交代で務める神職役であるこうどの神かみによる神事の後に締太鼓の音色に乗って歌い、踊る。その後、大川神社でも花笠踊りと歌を奉納し、歩いて志古淵神社に向かう。

それぞれの神社で手の込んだ花笠が行燈の中に灯されたろうそくの明かりに照らされ、ゆったりとした踊りでゆらゆらと揺れ、哀調をおびた歌が山里の宵闇に響く様はとても幻想的である。

志古淵神社では、令和5年は作られなかったが、本来は境内に櫓が組まれ、先に女性たちがヤッサ踊りを踊って花笠の到着を待っている。その中に花笠を持った男性たちが練りこんで行くのである。

到着した花笠はいったん拝殿に納められ、神事による神事のあと男性たちに戻される。やがてヤッサ踊りが終わると「より棒」を持った男性2人が棒を打ち交



わし、22時ごろから花笠踊が始まる。5つの町が上組、下組に分かれ、先番3曲、後番4曲の計7曲を歌い、踊りを披露するのである。

かつて、この歌は上下の組で当日までどの歌を歌うかは秘密となっており、また先番が歌った歌に呼応した選曲のために、別の組が当日に何を歌うのか事前に探りを入れたこともあったようである。



上の宮神社にて 左の人が持っている棒が「より棒」

この歌は室町小歌の流れを汲むといわれており、現在は14番の詞章と曲が残され、ある年に7番が歌われれば、翌年は別の7番が歌われる。ただ、曲が失われてしまっているが130番余りの詞章が残されていることがわかっている。

先ほども述べた通り、現在は久多花笠踊保存会の方々が花笠を作り、踊り手となっているが、かつては久多の少年、青年たちの行事であった。少年が花笠を被りそれを青年や大人たちが後ろで支えていたという。

少年の顔は花笠の台の下に長く垂らされた布で、また青年や大人は暗がりの中で見えづらかったであろう。志古淵神社でヤッサ踊りを踊っていた女性たちは彼らの姿を行燈のほの明かりのなかで見つめ意中の男性を探していたのではないだろうか。そして、青年たちは踊りの翌日に『笠やぶり』という花笠の解体を行う。その際に意中の女性に笠を飾っていた花を贈ったということだ。

男性が自らの手で精巧な造花を作り、非常に繊細な紙細工の透かしに腕を振るうのは意中の女性のことを思っただけのことだったのだろう。それ故に技術が発達し、洗練されてきたということもできよう。花笠は祭りの日に若い男女の縁をも取り持っていたのではないだろうか。



志古淵神社でのヤッサ踊りの様子

## 久多の願いー花笠踊が続くように

ただ、現在の久多地域は人口が70名程、久多花笠踊保存会の方々も50人ほどおられるものの年齢は50代から80代という。かつての近江、京都を人々が往来する要衝としてまた、盛んな林業の集積地として仙人や筏師といった人々で賑わったのは残念ながら過去のものとなってしまった。

河原会長は財団のプロモーションビデオでのインタビューで花笠踊は「年に1回だけ、皆が寄り合いで踊りをする久多地区のきずな」だと言い、「若い人に続けていってほしい。」と語っている。

そして、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことを契機として久多をルーツに持つ若い人たちで続けていくことを願っておられる。

## おわりにー継承の難しさと助成制度

このように京都に伝承されてきた伝統行事・芸能を保持する保存会にとっては久多花笠踊保存会だけでなく次の世代への継承が大きな課題のひとつとなっている。幸いにして久多では続けることができたが、コロナにより4年間活動を中止・自粛をしてきた保存会は数多あり、そのため世代間の交流が妨げられ、技芸を伝えられず少子高齢化の中で伝統行事・芸能の継承をより困難なものとしてしまった。

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団はこれまでも伝統行事・芸能を支援してきたが、この度後継者育成に特化した助成金をクラウドファンディングで新たに立ち上げ、少しでも力になりたいと考えている。

《会員の皆様方のご協力、よろしくご協力申し上げます。》

- ・久多花笠踊保存会『久多の花笠踊調査報告書』（藝能史研究会編）1974年
- ・京都市『史料 京都の歴史第8巻 左京区』平凡社 1985年
- ・福原敏男「洛北における盆の風流灯籠踊り」（『国立歴史民俗博物館研究報告 第112集』）2004年
- ・安曇川流域文化遺産活用推進協議会、高島市文化遺産活用実行委員会『安曇川リバーサイドマップミニ』2017年
- ・福持昌之「久多の花笠踊を伝える地域ー1970年代の文化財調査のその後ー」（『藝能史研究』216号）2017年
- ・久多自治振興会『久多文化遺産散策マップ』2019年

## 会員寄附者 芳名録

ご支援・ご協力ありがとうございました

### 寄附金 芳名録 (敬称略)

ご寄附をいただきました皆様のご芳名を掲載させていただきます。名簿は寄附受納順にご紹介しています。

2024.1.1～2024.5.31

#### 法人

##### 【特別会員】

株式会社近鉄・都ホテルズ<sup>®</sup> ウェスティン都ホテル京都 総支配人 長尾修二 (京都市)

柊家株式会社 会長 西村勝 (京都市)

株式会社二期 代表取締役 奥村茂和 (東京都渋谷区)

東レエンジニアリング株式会社 代表取締役社長 岩出卓 (大津市)

##### 【普通会员】

車折神社 宮司 高田能史 (京都市)

上賀茂やすらい踊保存会 会長 藤井寿一 (京都市)

壬生六斎念仏講中 会長 山根正廣 (京都市)

NPO法人 大文字保存会 理事長 長谷川英文 (京都市)

鞍馬火祭保存会 会長 三宅徳彦 (京都市)

妙顕寺 及川日周 (京都市)

ほか匿名1名

##### 【賛助会員】

市原ハモハ踊・鉄扇保存会 大道泰規 (京都市)

#### 個人

##### 【特別会員】

井樋 治正 (栃木県下野市)

上川 正 (京都市)

光本 大助 (京都市)

牛尾 忠子 (姫路市)

伊勢 初枝 (京都市)

伊勢 和夫 (京都市)

伊勢 芳夫 (尼崎市)

岩佐 氏昭 (京都市)

奈良 行博 (大阪市)

上村 和直 (乙訓郡大山崎町)

岡 雅之 (京都市)

杉丸 一美 (宇治市)

渡邊 正勝 (横浜市)

操田 邦男 (堺市)

小寺 啓介 (京都市)

浅野 明美 (京都市)

林 節治 (京都市)

奥山 脩二 (京都市)

ほか匿名8名

##### 【普通会员】

上条 誠 (長野県塩尻市)

稲垣 保彦 (津市)

稲垣 幸子 (津市)

藤ノ木紀子 (東京都渋谷区)

田中 一幸 (堺市)

松澤 宏樹 (京都市)

堺 紀恵子 (京都市)

田中恵美子 (堺市)

宮本としか (吹田市)

北川 浩司 (岐阜県各務原市)

高奥 英路 (京都市)

中川 博視 (京都市)

山本 和男 (大津市)

太田 隆子 (京都市)

風戸由紀子 (千葉県成田市)

栢谷 雄三 (京都市)

岩崎 勉 (京都市)

中島 弘益 (京都市)

山口伸一郎 (高槻市)

桑原 俊夫 (茨木市)

井上 聡 (大津市)

磯部 守孝 (京都市)

北村 雄司 (京都市)

堀籠 幹雄 (京都市)

本島ひろみ (大津市)

本島 裕二 (大津市)

菊井 誠 (京都市)

栗原 勝彦 (東京都板橋区)

大村 玲子 (草津市)

小林知住子 (京都市)

根本 昌郎 (宇治市)

東 清和 (大津市)

田畑 勇 (岐阜県揖斐郡揖斐川町)

岡本 修 (城陽市)

川並 宇 (神戸市)

内藤 純子 (京都市)

山本 達夫 (京都市)

赤井 明子 (京都市)

野口 匡 (横浜市)

大倉恵美子 (高槻市)

山下 淑夫 (京都市)

谷口 幸治 (京都市)

小澤 司 (京都市)

山田美幸子 (岐阜市)

神崎 由紀 (吹田市)

塩谷 陽 (吹田市)

大西芳太郎 (横浜市)

大橋 祥江 (岐阜県大垣市)

神崎 敏道 (吹田市)

井戸 礼子 (吹田市)

山下友香理 (京都市)

左近 千歳 (東京都足立区)

池田 妙子 (京都市)

井口賢太郎 (京都市)

藤田 加代 (京都市)

藤田 清臣 (京都市)

皐月 直美 (京都市)

西村 明 (京都市)

西村 由布 (京都市)

広瀬 裕一 (神戸市)

村岡 弓子 (京都市)

北島 誠一 (城陽市)

鈴木 隆志 (京都市)

川妻 聖枝 (京都市)

鷺北 真央 (富山県射水市)

吉川百合子 (京都市)

奥村彰太郎 (東京都杉並区)

谷山 正昭 (茨木市)

山野井珠儿 (京都市)

北村 敏郎 (岐阜県大垣市)

入江 順一 (京都市)

山本 恵子 (京都市)

堀江 まり (京都市)

角田 真也 (横浜市)

室田 芳万 (草津市)

山中 博昭 (京都市)

寺井 正 (京都市)

杉原 芳典 (京都市)

稲田 新吾 (京都市)

高橋 和子 (京都市)

三宅 友和 (京都市)

ほか匿名23名

##### 【賛助会員】

高須 良弘 (大阪市)

濱口 大輔 (千葉県市川市)

齋藤 節子 (東大阪市)

榊原 大介 (たつの市)

大加戸裕子 (神戸市)

原 小壽 (京都市)

鎌田恵理子 (京都市)

上田 順子 (東近江市)

福島 郁子 (京都市)

本山 秀治 (西宮市)

奥田 英紀 (愛知県大府市)

米田 功 (大阪市)

神波 順子 (京都市)

塚本 稔 (京都市)

内田 明代 (京都市)

梅田 洋子 (東京都品川区)

田中由美子 (吹田市)

森田美智恵 (箕面市)

ほか匿名10名

### 京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために

#### 皆様のご支援・ご協力をお願いいたします

- ◇皆様からの寄附や新しい会員の呼びかけに一層のご支援とご協力をお願いいたします。また、当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布・設置にもご協力下さい。
- ◇寄附金は、税の優遇措置を受けていただけます。当財団は「公益財団法人」として認定を受けていますので、寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用され、個人の方は確定申告により所得税の控除を、法人においては法人税の損金算入が認められています。



## 伝統行事・伝統芸能後継者育成のためのクラウドファンディングを実施します



イラスト：526

実施時期：令和6年8月9日(金)～11月8日(金)

目標金額 1,000,000円

詳しくはQRコードを読み取るか、財団ホームページ「クラウドファンディングについて」をご覧ください。



京都の町では、季節を彩る祭や六斎念仏、狂言、また山村では松上げや火祭、花笠踊など、個性豊かな伝統行事・芸能が地域の方々を中心に守られ、現代まで受け継がれてまいりました。

しかし、近年の少子高齢化、文化継承の意識の変化、地域の過疎化などから、次世代への継承が難しく、規模の縮小ややむを得ず中止となる行事もあるのが現状です。

そこで、この度、後継者育成をおこなう保存会への助成をおこない、文化の継承・地域全体の活性化につなげていきたいと思っています。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団 理事長 和田林 道宜

### 保存会の声

#### 久多の花笠踊

久多の花笠踊は、特集記事にある通り久多住民の絆として諸先輩達が永年に渡りほそぼそと伝承して来たことがユネスコ無形文化遺産登録に繋がりました。久多地区は自然豊かな里山ではありますが公共交通機関が無く、少子高齢化（現在中学生1人）による過疎で、人口減少が大きな課題です。そこで移住者を対象とする後継者育成を考えており、10年後には久多地区に子供の笑い声が聞こえるようにしたいのです。そうして世界の風流踊りの一つとして久多の花笠踊りを末永く次世代へと継承してまいります。

今回、京都市文化観光資源保護財団の後継者育成に特化した助成金にて移住者用の衣装や練習のための花笠製作費用等を考えています。また久多花笠踊保存会だけでなく、様々な保存会の後継者の育成のためにもクラウドファンディングでの皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

久多花笠踊保存会 会長 河原 康博

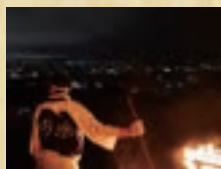
以前は準備が1日でできていたが、地域の人口減少、齢で2日かかるようになった。若者が減り、松明を上げる者が少なくなった。（小塩上げ松保存会）

若年層の会員が減り、現会員の高齢化が問題で、将来的に実施が困難になる。（広河原松上げ保存会）



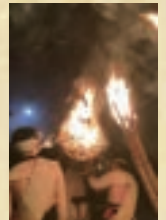
少年たちが狂言クラブに入って活動してくれているが、せっかく演じられるようになっても大人になると続けられないことが多い。（嵯峨大念仏狂言保存会）

会員の高齢化、地域からの離散などで伝統行事を続けていける担い手が減っている。（松ヶ崎立正会＝五山送り火、妙法）



こんなことに困っています

藤蔓など材料調達が大変になってきている。最近は亀岡あたりまで手弁当で探しに行ってもらっている。（鞍馬火祭保存会）



世話方の高齢化と減少。乗子の世代交代。乗子は技習得に時間がかかります。（藤森駈馬神事保存会）

保存会に新規加入する人が少なく、子どもはせっかく入っても進学などで数年で辞めてしまう。（西院六斎保存会）

「こども六斎」を組織しているが、子供たちの安定した加入に苦慮している。（桂六斎保存会）

## 京の郷土芸能のつどいを開催します

日程：令和7年2月22日(土) 開演 13:30 (開場13:00)

場所：ロームシアター京都 メインホール

### 出演団体 (順不同)

壬生六斎念仏講中、久世六斎保存会、京都鬼剣舞、  
千本ゑんま堂大念佛狂言保存会、有田神楽団  
(広島県・芸北神楽)



チケットは10月22日午前10時から **販売開始!**

#### 窓口・電話

ロームシアター京都 チケットカウンター TEL 075-746-3201  
(窓口・電話とも10:00～17:00 / 年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)  
上記電話番号は、チケットを購入される場合のみご利用下さい。  
公演のお問い合わせは 財団 075-752-0235 までお願いします。

#### オンライン

オンラインチケット 24時間購入可能 ※要事前登録 (事前登録無料)  
<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

料金 (全席指定) ▶ 大人 前売券 1500円 当日券 2000円

(中高生の設定もございます。詳しくは右のQRコードを読み取るか、財団のホームページ「京の郷土芸能のつどい」専用ページをご覧ください。なお、財団の事務局ではチケット販売はいたしておりません)



財団のHPのQRコード

### ＝ 出演団体の皆様よりメッセージを頂きました ＝

#### 壬生の地に伝わる六斎念仏と受け継がれる風流

京都の壬生という地域には棒振り、猿、壬生狂言、獅子舞、鶯舞、祇園祭など、これまでに様々な芸能があり、今でも生き続けています。



その中に六斎念仏があります。京都の六斎念仏の多くは国指定重要無形民俗文化財であり、風流踊りとしてユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

私たち壬生六斎念仏講中もその中のひとつであり、永く壬生に伝わる民俗芸能です。発願や御詠歌など供養のお念仏から、江戸時代の流行唄や獅子舞など、人々に楽しんでもらい魅了させる演目にも取り組んでいます。演目のひとつひとつに教えと意味が伝わっており、

時代に負けない風流を取り入れるのも私たち壬生六斎念仏の特徴です。

2月22日、皆様にお会い出来ることを楽しみにしております。

壬生六斎念仏講中会長 原田 一樹



#### 千本ゑんま堂大念佛狂言保存会、発足50周年



昭和49年に狂言舞台が焼失、昭和50年に本堂で復活公演を始めてから50年経ちました。令和7年は「京の郷土芸能のつどい」への参加や、

50周年の記念企画公演を催したいと思っています。

毎年5月1日から4日まで、ゑんま堂境内特設舞台で無料公演を行っています。今年の公演では、嵯峨狂言をお迎えし、ゑんま堂狂言と嵯峨狂言の「土蜘蛛」を連続で上演し、お客様には両狂言の違いを感じていただくことができ、大変喜ばれました。

滋賀県の長浜や木之本での自主公演開催や、大阪の国立民族学博物館で特別公演を開催し、他府県の方々にも楽しんでいただきました。

今後も大勢の方々に、ゑんま堂狂言全27演目を味わっていただけるよう練習に励みますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2月22日、ロームシアターでお待ちしております。

千本ゑんま堂大念佛狂言  
保存会会長 宮田 勝行





# 保護財団の活動

## 文化観光資源保護事業

### 令和5年度文化観光資源保護助成事業 修復・継承された文化遺産

令和5年度、当財団の文化観光資源保護助成事業に49件の申請がありました。令和2年度、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、四だ行事をはじめとする多くの伝統行事・芸能が中止あるいは大幅な規模縮小に追い込まれたが、令和4年度には感染対策を万全に整えることで多くの行事が徐々に動き出し、令和5年度については天候に起因する中止以外はようやくコロナ以前の状態に戻ってきました。助成金総額は5,751万円で、その内訳は建造物、美術工芸品等の修理に対する助成が4件で280万円、伝統行事・伝統芸能の保存及び執行に対する助成が44件（内3件が中止）で5,217万円、文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備に対する助成が1件で254万円となります。ここでは修復された建造物、美術工芸品を紹介します。

#### 迎称寺の本堂修理（京都市左京区）

桁行9m、梁行9m、入母屋造、棧瓦葺

迎称寺はかつては一条堀川にあり、一条道場と呼ばれていたとも伝えます。もとは天台宗でしたが、鎌倉時代には時宗に改めており、のち京極一条に移転していますが、江戸時代の元禄5年（1692）に寺町一帯の火災により焼失し、翌元禄6年（1693）、鴨東の現在地に移っています。近世以降、京都の時宗は退潮傾向がみられ減少していきませんが、迎称寺の所在する鴨東の地は、比較的よくその寺観を今に伝えています。

今回、修理を行った本堂は、瓦銘により宝暦6年（1756）頃に建立されたものと考えられています。経年による瓦のズレが生じ、水がまわった正面向拝（けらぼ）羽部の一部が崩壊しかけているため、屋根廻りの修理を行いました。



迎称寺の本堂

#### 龍安寺の庫裏玄関修理（京都市右京区）

（玄関部）梁行3m、入口屋根入母屋造、柿葺



龍安寺の庫裏玄関

龍安寺は、臨済宗妙心寺派の寺院で、室町幕府の管領職にあった細川勝元が、妙心寺第5世の義天玄承（ぎてんげんしょう）禪師を開山に迎え宝徳2年（1450）に創建しています。応仁・文明の乱をはじめ幾たびかの火災に見舞われており、現在の伽藍は、寛政9年（1797）の火災後に再建されたもので、方丈は慶長11年（1606）造営の塔頭西源院の方丈を移築したものです。今回修理を行った庫裏も同じ頃に再建されたものと考えられています。庫裏は僧侶の居住する空間ですが、寺院の玄関としても使われ、現在は団体拝観者用の出入口として使用されています。庫裏は切妻造の本瓦葺ですが、修理対象の玄関部分は入母屋造、柿葺きです。穴があいていたり、柿が減るなどの個所がみられ、雨漏りが懸念される状態であるため、同様の柿で葺替えが行われました。



## 海福院の紙本墨画襖絵修理 (京都市右京区)

4枚4面 本紙寸法 縦168.0cm 横93.5cm

海福院は、戦国時代の武将福島正則かいつちもんが夫室智丈和尚を開山として創建された臨濟宗妙心寺派の塔頭寺院です。今回修理を行ったのは曾我蕭白筆「紙本墨画李白観瀑図」で、本堂にはめられた4枚の襖絵です。

向かって左2面には橋上を渡る高士と2人の童子が描かれており、高士は左脇を童子に寄りかかり、またもう一人の童子に右袖を引っ張られながら、顔を右上方の滝の方に向けている姿から酔態する李白の「観瀑」を描いているものとみられています。正確な制作年代は不明ですが、その作風から、明和年間(1764～1772)頃の作とみられています。全体的に経年劣化により亀裂が生じていること等から修理がおこなわれました。



海福院の障壁画  
下段は上段の拡大図

## 雲龍院の木造不動明王脇侍修理 (京都市東山区)

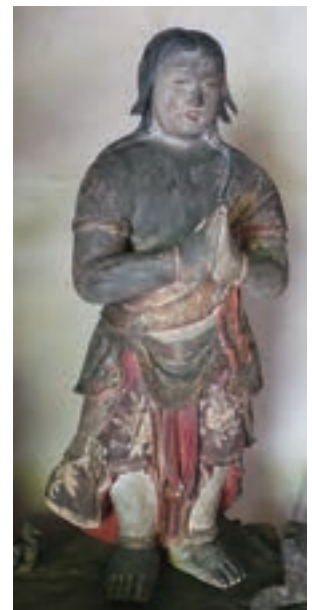
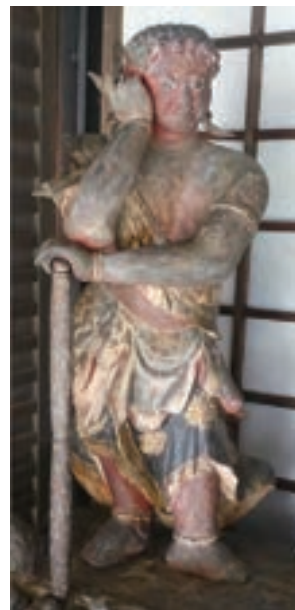
左脇侍(矜羯羅童子) 像高 61.6cm

右脇侍(制吒迦童子) 像高 62.3cm

雲龍院は、泉涌寺山内にあつて別格本山の寺格を有する真言宗の別院です。応安5年(1372)後光厳天皇の勅願により創建されました。

今回修理を行った木造不動明王脇侍二童子は中尊である半跏像とともに正保3年(1646)頃までに建立された現在の本堂である龍華殿に安置されたものとみられています。二尊ともヒノキ材の寄木造で、彫眼、彩色仕上げを施し岩座上に立ちます。不動明王を中尊にして左脇侍は慈悲を現わす矜羯羅童子で、顔を正面に向け、胸前で合掌しており、また忿怒を現わす右脇侍の制吒迦童子は、頭部をわずかに右方へ傾け顔を左方に向けています。

二像とも全体に亘り各接ぎ目に緩みや離れる箇所が見られ、彩色部分に剥離や剥落箇所があること等から修理を行うこととされました。



雲龍院の木造不動明王脇侍 (左…制吒迦童子 右…矜羯羅童子)

## 令和6年度文化観光資源保護事業助成申請の募集を行いました。

令和6年度の文化観光資源保護事業の助成申請の募集と申請受付を行いましたところ51件の相談、申請がありました。内訳は、文化財所有者、管理者の行う文化観光資源保護事業5件、伝統行事、伝統芸能保存・執行事業45件、文化観光資源をとりまく自然環境の保全事業1件です。

助成申請のあった保護事業(修理)は、春浦院(右京区)の障壁画修理、良正院(東山区)の木造阿弥陀如来立像修理、迎称寺(左京区)の木造童子形立像修理、

地藏寺(左京区)の木造地藏菩薩坐像修理、法輪院(左京区)の木造阿弥陀如来立像修理などがありました。

伝統行事・伝統芸能の保存、執行事業の部では、葵祭、祇園祭、京都五山送り火、時代祭の四大大行事や京都市域に伝承されている行事・芸能各保存団体による公開執行事業が新型コロナウイルス感染症以前の申請件数にほぼ戻りました。今後、事務局におきまして資料収集、実態調査などを行い、文化財専門委員会の審議を経て助成金の交付を決定します。

## 普及啓発事業・会員事業

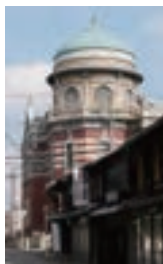
### 文化財講座「ユネスコ無形文化遺産 京都のやすらい花」を開催しました

3月3日(日)、京都生涯学習総合センター(京都アスニー)において、やすらい花の講演と実演を開催しました。最初に、元京都市文化財保護審議会委員で民俗芸能研究の第一人者の山路興造先生にやすらい花の歴史と芸態や歌詞について解説して頂き、「やすらい踊」の記録映像を上映しました。その後、上賀茂やすらい踊保存会の皆様による踊りと演奏の実演がおこなわれ、春の始まりを感じる会となりました。



### 会員事業「西本願寺文化財鑑賞会」 を開催しました

3月14日(木)、西本願寺の伝道院と境内の文化財鑑賞会を開催しました。伊藤忠太による設計で1912年に建設された伝道院は、インド・サラセン風のドーム屋根をはじめ多様な材料・モチーフで彩られた建物です。今回は普段非公開の伝道院内部で龍谷ミュージアム学芸員の和田秀寿先生に伝道院に関して講演頂いた後、僧侶の方のご案内で境内(御影堂・阿弥陀堂・書院・飛雲閣・唐門)を見学しました。一幅の絵のような美しさの飛雲閣や豪華で細やかな意匠の唐門などをじっくりと見学しました。



### 「葵祭路頭の儀観覧事業」を開催しました

5月15日(水)、京都御苑の当財団特別観覧席にて、寄附のお礼として葵祭路頭の儀観覧事業を開催しました。当日は過ごしやすい気候で、斎王代をはじめとする華やかな列が春の京都を練り歩きました。



### 会員事業「清水寺 ご住職ご法話と拝観」 を開催しました

4月10日(水)、清水寺円通殿にて会員事業を開催しました。ご住職の森清範様と教学部長であり執事の森清顕様おふたりのご法話をお聞きし、その後自由に拝観しました。清顕様は、16世紀に描かれたと伝わる「清水寺参詣曼荼羅」をスクリーンに映し出し、江戸時代の火災で焼失する前の清水寺の伽藍や、門前町のにぎやかな様子、当時の人びとの生き生きとした日常をご紹介します。ご住職の清範様には「今年の漢字®」にまつわるエピソードや、旅の道中で出会われた人と言葉の大切さについてのお話を、ユーモアと心に響くお言葉でお話頂きました。終了後は境内を自由に拝観しました。



「今年の漢字®」は(公財)日本漢字能力検定協会の登録商標です。

### 文化財講座「京都を彩る伝統文化 いけばな」 を開催しました

4月24日(水)、華道家元池坊様ご協力の下、「京都を彩る伝統文化 いけばな」を開催しました。池坊中央研究所主任研究員の細川武稔先生に、華道家元池坊に残る文化財の数々に関してわかりやすくお話を頂きました。その後、華道家元池坊総務所の堀江道佑先生によるいけばなのデモンストレーションでは、池坊の3つのスタイルである室町時代の「立花」、江戸時代の「生花」、昭和の「自由花」を生けて頂き、華やかな雰囲気に包まれました。終了後、自由見学のいけばな資料館では、細川先生の講演に登場した文化財が展示されており、皆さん熱心に見学されていました。



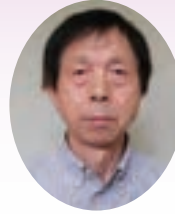
### 会員事業「北野天満宮 宝物殿ともみじ苑 ご招待」を開催しました

青もみじの美しい5月に、北野天満宮 宝物殿ともみじ苑へご招待しました。お申込頂いた会員様に自由に行って頂けるよう、観覧招待券をお送りしました。



## 文化財講座 「京都三山の植生変遷と五山送り火」を開催します

- 日時 令和6年10月4日(金)  
午前10時～11時30分(開場9時30分)
  - 定員 400名(当日先着順)
  - 会場 京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)4階ホール
  - 内容 ◇講演 「京都三山の植生変遷と五山送り火」  
講師 京都精華大学名誉教授 小椋 純一
  - 共催 公益財団法人京都市生涯学習振興財団
- ※事前申し込み不要。当日受付のため、直接会場へお越しください。



## 文化財～まち歩きのおすすめ～(第3回)

### 鴨川沿いの花街めぐり《前編》 ～先斗町から祇園新橋へ～

京都市文化観光資源保護財団 アドバイザー 松田 彰  
(写真撮影も)



「夏は河原の夕涼み 白い襟足ぼんぼりに かくす涙の口紅も 燃えて身を焼く大文字 祇園恋しや だらりの帯よ」これは祇園小唄の2番です。蒸し暑い京都の夏に、河原を吹き抜ける微風は、心と体を癒してくれます。そこで、三条大橋から鴨川沿いの4つの花街を巡りましょう。今回は先斗町と祇園新橋です。

三条大橋西詰めを南に下がり、突き当りを西に行ったところが先斗町通の北端。そこから四条通までが先斗町地区です。江戸初期の1670(寛文10)年に「寛文の新堤」と称される鴨川護岸工事が行われ、高瀬川と鴨川の間生まれた土地が開発され、誕生したのが「先斗町」です。通りを下がると左手に先斗町歌舞練場が現われ、歴史的町並みにインパクトを与えています。狭い通りの両側には伝統的な建物が建ち並び、すだれや格子、犬矢来などを備えた茶屋建築等が花街文化を醸し出しています。町の魅力である先斗町通は道幅が狭いうえ、上空を飛び交う電線類で空が霞んでいましたが、極端に狭い道路と複雑に埋設された管のため不可能といわれた無電柱化が2021(令和3)年に完了し、空がスッキリと見え、風情ある町並みがよみがえってきました。



歌舞練場前の先斗町

四条大橋を東に渡り、大和大路通を北に上がると「祇園新橋」。新橋通と白川南通、そして巽橋から南に延びた切り通しに面するところがその地区です。江戸末期から明治初期にかけての洗練された町家が

整然と建ち並び、白川や石畳、樹木などと一体となつてすぐれた歴史的風致を形成しており、伝統的建造物群保存地区に指定されています。

祇園新橋をはじめとする鴨川東岸が大きく変わるのには、「寛文の新堤」が構築されて以降。これにより大和大路通の三条・四条間に祇園外六町が開かれ、1712(正徳2)



祇園新橋

年には祇園内六町(元吉町、末吉町、橋本町、清本町、富永町、林下町)も開かれました。四条通の北と南にまたがる祇園町は、1872(明治5)年に建仁寺境内の北部が上知され現在の祇園町南側に編入されるなど、花街がさらに広がっていきました。(つづく)



《歩いた距離 1.4キロ、歩いた時間 0.4時間》

## 会員特典事業

会員の方限定に文化財特別鑑賞等にご招待を行います。参加ご希望の方は、各内容によりお申し込みください。

### 事業No.24003 「風俗博物館」ご招待

平安時代の風俗や衣裳を人形や模型を用いて具現的に展示された「風俗博物館」にご招待します。

- 期 間 11月1日(金)～11月30日(土) (日・祝休館)
- 開館時間 10時～17時 (入館は16時半まで)
- 場 所 風俗博物館  
(下京区堀川通花屋町下る 井筒左女牛ビル5階)
- 申込定員 100名

※招待券は10月上旬を目途に発送いたします。

※写真はイメージです (11月の期間内の展示内容とは異なります)



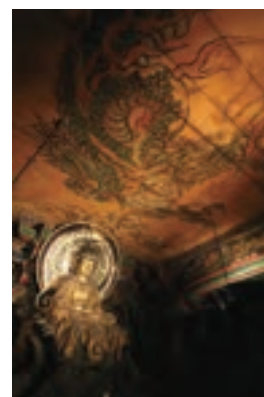
写真提供 / 風俗博物館

### 事業No.24004 京都古文化保存協会主催「令和6年度第60回京都非公開文化財特別公開」ご招待

寺院・神社などが所蔵する普段非公開の文化財を特別公開する、公益財団法人京都古文化保存協会主催の当事業に招待します。

- 期 間 10月26日(土)～12月8日(日)
- 場 所 大報恩寺 (千本釈迦堂)、知恩院 三門、八坂神社、泉涌寺 舍利殿、阿弥陀寺 (山科区御陵天徳町) ほか
- 定 員 150名

※招待券は10月上旬を目途に発送いたします。



知恩院三門 二層内部

■申込方法 当会報にあわせて送付しています「会員ご招待・優待事業申込」ハガキ又は当財団ウェブサイト (<http://www.kyobunka.or.jp>) の会員サイトからお申し込みください。お申し込みの際は、必ず事業No.をご記入ください。

■申込資格 会員本人様1名に限る

■申込締切日 **9月10日(火)必着**

※上記の会員事業は、申込多数の場合は抽選とし、当選者の方のみご送付させていただきます。

※会員限定の事業となりますので、会員期限をご確認の上ご応募ください。なお、会員期限が切れておられる方は継続のご寄付をお願いいたします。

■お問合せ (公財)京都市文化観光資源保護財団 事務局 会員事業担当  
TEL 075-752-0235 (平日9:00～17:00)、FAX 075-752-0236

## 表紙解説

### 「円覚寺六斎念仏」

ゆずの里として知られる水尾(京都市右京区)の「円覚寺六斎念仏」です。西方寺の檀家の方々によって傳承されています。現在は「発願」という演目のみが残されています。写真は8月24日の地蔵盆の日に「向い寺の地蔵」に奉納しているところです。光あふれる緑の中での念仏の声と鉦・太鼓の音色が山々にこだましていました。

写真提供 / 中野 貴広